対象作品／佐藤まどか作『コケシちゃん』フレーベル館

『コケシちゃん』を読んで

弘前市立第三大成小学校　三政好実

この本の表紙はとてもかわいくて、私がちょうどこけし館に行った後だったので、どんなお話なのかなと思い読んでみました。お話の中に、外国と日本のちがいがたくさん出てきておもしろかったです。

京ちゃんは自分の考えをはっきりと言える女の子で、外国語も色々話せて、かっこいいなと思いました。クラスメイトのくるみちゃんは自信がなく、おどおどしている子で、私はどっちにているかなぁと考えました。私はいつもお姉ちゃんに、「もっと大きな声ではっきり言って」と言われるので、くるみちゃんにているのかもしれません。自分の考えをはっきりと言える京ちゃんみたいな人にあこがれます。

京ちゃんは私と同じ四年生なのに、お母さんが死んでしまっているなんて、とてもかわいそうでした。こけしのようなかみがたは、お母さんのことがなつかしくてなつかしくて同じにしていたので、とてもさびしいんだなぁと思いました。同じかみがたにすると、きっと、お母さんがそばにいてくれるような気持ちになるのだと思います。

私が一番心に残った場面は、京ちゃんが男の子にバカにされ、お母さんのことまでバカにされた時に、くるみちゃんが大きい声を出した場面です。いつも小さい声のくるみちゃんがあんなに大きい声を出せたのは、京ちゃんを助けたいと思ったからだと思います。知らんぷりできなかったのだと思います。私も困っている友達がいた時は、はっきりした声で助けたいと思います。その後にくるみちゃんと京ちゃんが先生によび出された時はびっくりし、二人がおこられるのかほめられるのか、とてもはらはらしました。

京ちゃんがスイスに帰る前に、女の子三人でおばあちゃん家にとまることにした時、男の子が来たので、またバカにされるのかとヒヤッとしました。でもその時は仲良くなっていて、くるみちゃんがゆうきを出したことが仲良くなることにつながったのだとうれしくなりました。

私も、自分の考えをはっきりと伝え、そして、友達を大切

にするやさしい気持ちを持てる人になりたいです。